

4-3 ソーシャルキャピタルの評価

事業・活動の効果、活動の現状、グループの状態を確認したいのですが、どうすればいい？

表2 事業・活動のSC評価項目

評価の視点	評価項目
事業・活動のメンバーは年齢構成(該当するもの全てをチェック)	1. 中学生以下の子ども, 2. 高校生・大学生等 3. 20代から30代, 4. 40代から60代 5. 70代以上, 6. わからない
この2～3年で、事業・活動の実施や運営を行う人の数が増えているか	1. 増えていると思う, 2. 変わらないと思う 3. 減っていると思う, 4. わからない
事業・活動の実施や運営を行う人は、その活動以外でもつながっているか	1. 多くのメンバーがつながっていると思う 2. 半分位のメンバーがつながっていると思う 3. 少数のメンバーがつながっていると思う 4. つながっていないと思う, 5. わからない
事業・活動と地域資源(地域住民や商店街, 住民ボランティア等)との関わりや活用状況(関わっている人・団体全てをチェック)	1. 一般住民や住民ボランティア 2. 自治会・町内会・連合自治会等 3. 民生委員児童委員協議会 4. 学校・幼稚園・保育園など 5. 地元商店街・地元企業 6. 福祉サービスの事業者や施設・医療機関 7. 自治体 8. 特になし, 9. その他, 10. わからない
この2～3年で、事業・活動に関わっている人・団体数が増えているか	1. 増えていると思う, 2. 変わらないと思う 3. 減っていると思う, 4. わからない
この2～3年で、事業・活動への参加者の数は増えているか	1. 増えていると思う, 2. 変わらないと思う 3. 減っていると思う, 4. わからない
この2～3年で、参加者以外の地域住民から、事業・活動は良い事業・活動だと認知されているか	1. そう思う, 2. どちらかというと思う 3. どちらかというと思わない, 4. そう思わない, 5. わからない
この2～3年で、事業・活動によって、地域住民同士の信頼や「お互いさま意識」が増しているか	1. そう思う, 2. どちらかというと思う 3. どちらかというと思わない, 4. そう思わない, 5. わからない
事業・活動によって、地域住民の健康や福祉に対する意識は高まったと思うか	1. そう思う, 2. どちらかというと思う 3. どちらかというと思わない, 4. そう思わない, 5. わからない
事業・活動は、その地域のSCの発展に貢献していると思うか	1. そう思う, 2. どちらかというと思う 3. どちらかというと思わない 4. そう思わない, 5. わからない

4-3 ソーシャルキャピタルの評価

Practice

あなたが担当している、もしくは関わっている事業・活動について、評価してみましょう！活動やグループの状態に該当する項目に✓を入れてみましょう。

★事業・活動の基本情報

- ①活動継続年数 年 月 ②活動箇所 ヶ所
③活動範囲 町内会 ・ 小学校区 ・ 中学校区 ・ 市区町村全域

発展性	実施・運営者の増減(この2～3年で)				
	増加	減少	変化なし	分からない	
	参加者の増減(この2～3年で)				
	増加	減少	変化なし	分からない	
	関与者・団体の増減(この2～3年で)				
	増加	減少	変化なし	分からない	
多様性	活用している地域資源				
	一般住民・ボランティア		自治会	民生委員	学校・
	専門機関(例 警察等)		福祉機関	自治体	医療機関
	地元商店街・地元企業		社協等	その他	分からない
	実施・運営者の年齢構成*				
	中学生以下の子ども	高校生・大学生等	20代から30代	40代から60代	70代以上
実施・運営者の活動外でのつながりの有無					
多くの者同士である	半分以上の者同士である	少数の者同士である	つながりない	分からない	
地域への波及	地域住民からの活動評価(良い活動と評価されているか)				
	非常に高い	まあ高い	やや低い	非常に低い	分からない
	地域住民のSC(住民間の信頼や「お互い様」意識)醸成への効果				
	非常に高い	まあ高い	やや低い	非常に低い	分からない
	地域のSC発展・醸成への効果				
	非常に高い	まあ高い	やや低い	非常に低い	分からない
地域住民の健康・福祉への意識の高まりへの効果					
非常に高い	まあ高い	やや低い	非常に低い	分からない	

なお、「分からない」に多くの✓が入る場合は、事業・活動を見直しに向け、グループや活動状況に関する情報を集める必要があるでしょう。*「実施・運営者の年齢構成」も同様です。

SCの視点

認知的SCの評価は明確な効果が出づらいかもかもしれません。そこで、保健師が客観的な立場で多角的に評価することが重要でしょう。その際に、活動当事者、地域住民や活動の受け入れ側、保健師自身という3者の視点から評価することが望ましいでしょう。活動当事者や地域住民からの評価については、アンケート調査や聞き取り調査を実施することで評価に必要な情報を得ることができます。また、聞き取り調査に関しては「調査」という形を取らずとも、日々の保健師活動の中での立ち話から意見を拾い上げることも効果的です。

認知的SCの評価を実施した結果、3者間で評価結果が著しく乖離する場合は、活動内容やグループの状態を見直し、何らかの改善策を講じる必要があるかもしれません。例えば、活動当事者が高い評価であるのに対し、地域住民が低い評価である場合は、事業・活動の内容や展開が活動当事者レベルに留まり、地域への波及効果を伴っていない可能性が考えられます。

(参考文献)

- エリザベス T. アンダーソン／ジュディス・マクファーレイン編：『コミュニティ アズ パートナー；地域看護学の理論と実際(第2版)』 医学書院 (2007)
- 認知症介護研究・研修仙台センター編：『地域包括支援センターにおける地域づくりとソーシャルキャピタル；地域の自助・互助機能を高めるための企画・実践・評価』 認知症介護研究・研修仙台センター (2011)
- 本田光・富山裕子・宇座美代子：母子保健推進員とのパートナーシップを構築する保健師の技術；人口6万人規模の自治体における母子保健活動の実践を通して。日本看護科学会誌, 32(1), 12-20 (2012)



5章 事業・活動の維持

5-1 事業維持期における保健師の役割

5-1-1. 支援者としての保健師の役割

活動が軌道に乗り、住民グループとして自分たちで事業・活動を運営できるようになったら、保健師はその役割を「支援者」へと移行します(運営体制の整備や住民グループ形成は第3章3-2参照)。支援者は、グループがSCの高いグループをつくる、および地域のSC向上に有効な活動を展開するための助言をおこなっていきます。ここでは、保健師がグループへの関わりを支援者へと移行するステップを紹介します。地域や対象集団のSC向上に効果的な事業を実施し続けるには、安定したグループ運営が重要です。保健師は支援者として、SCの高いグループづくり、および地域のSC向上に有効な活動内容の維持といった2つの観点からグループを支援します。

1. 支援者への移行ステップ

リーダー的存在の人が明らかになり始めたころから、保健師は支援者としての役割に移行し始めることが望ましいでしょう。以下に支援者へ移行するための前提条件と移行ステップ¹⁻²⁾を紹介します。グループの成熟度にあわせて次のステップに進むことが望ましいでしょう。

支援者へと役割を移行し、リーダーシップを住民に委ねる前に実施すべきこと

- ✓ 運営メンバーのトレーニング(72ページ)で学習すべき内容をメンバーが十分に理解している。
- ✓ 保健師がやがては「支援者」となり、これまでと同じような頻度でグループに関われないことを事前に伝えておく。
- ✓ グループのメンバー(運営メンバーと一般参加者・ボランティア)が日々の活動の流れやどう進むのかといったことに関して具体的なイメージを持っている(76ページ参照)。

2. 支援者への移行ステップ

ステップ1. 定例会・ミーティング(MTG)の進行を運営メンバーに委ねる

- ✓ 定例会・MTGの進行や結論の取りまとめを住民メンバーに委ねる。
- ✓ 「何もしない」のではなく、円滑な議論や意思決定に必要な情報提供は適時行う。



ステップ2. 担い手が定例会・MTGのリーダーシップを持つ

- ✓ 保健師が出席しなくても定例会・MTGを住民が運営できるようにする。
- ✓ ただし、活動の継続の観点から自主運営が重要であること、既に自主運営が軌道に乗ってきたため保健師の役割が終了しつつあること、保健師は今後も支援者・協働のパートナーとして関わり、支援し続けることは伝える。



ステップ3. 定例会・MTG以外の機会に支援者として関わる

- ✓ グループのリーダーらがグループ運営で直面する様々な課題を気軽に相談できる人としての役割を担う。
- ✓ 必要に応じていつでも相談を受けることをグループやリーダーらにも伝える。

SCの視点

- 定例会・MTGに出席し続ける場合は、オブザーバー等の立場とし、定例会・MTGやグループ運営を積極的にリードしないことが、グループの力を高めることとなります。
- 定例会・MTGに出席した際には、活動に役立つ情報や活動に関連があると思われる制度・施策について、保健師としての専門的な知見から提供すると保健師の役割がグループで明確になるでしょう。
- 活動の発展に活用できそうな既存の地域資源との関係性構築などをコーディネートする役割も保健師には期待されるでしょう。



5章 事業・活動の維持

5-2 プログラム内容と組織の見直し

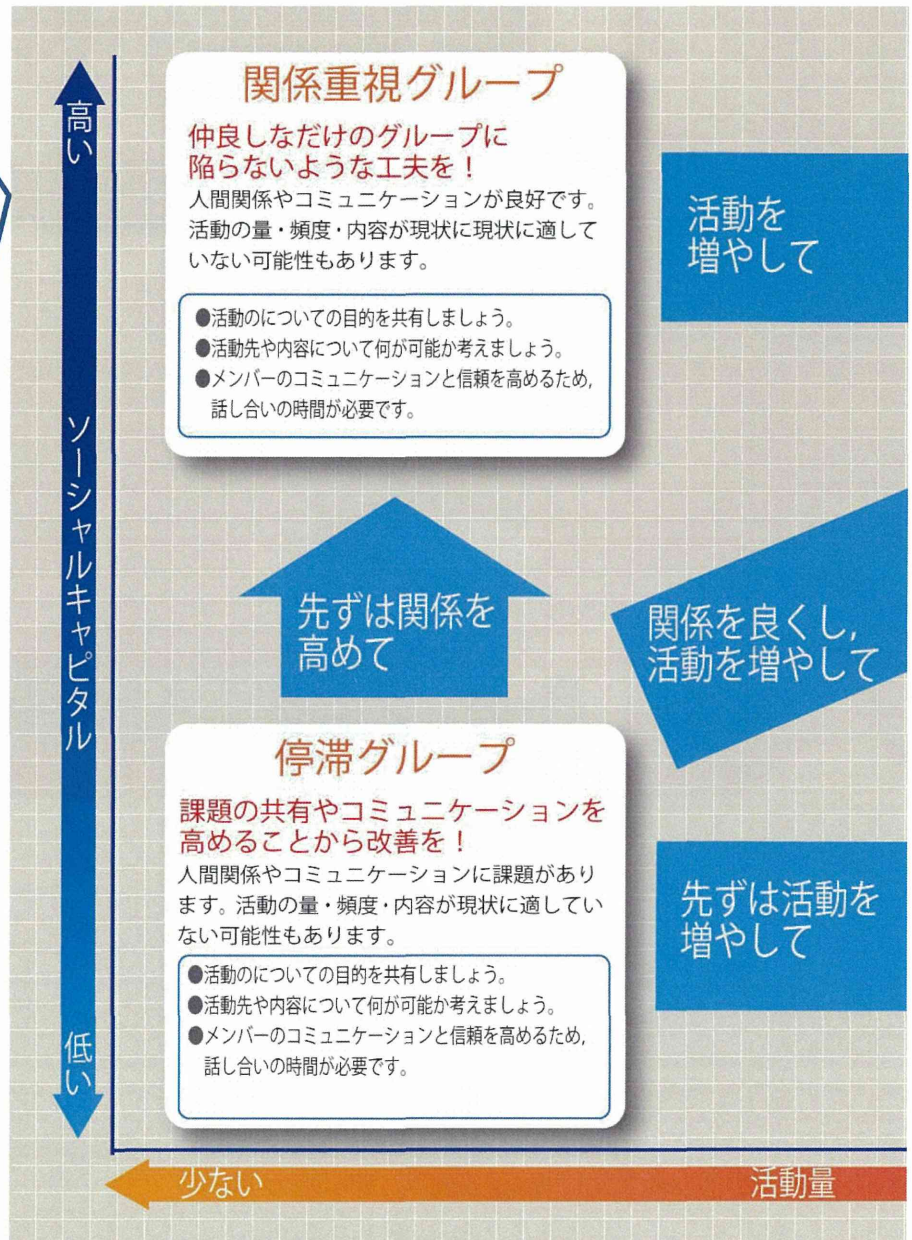
5-2-1 活動内容とグループの状態を振り返る

1. 今のグループの状態をチェックする

Practice

図1³⁾は、縦軸をグループ内のSC、横軸を活動状況(活動頻度, 内容, 質)として分類したものです。この図を基にまずはグループの状態をチェックしてみましょう。

「関係重視グループ」とは、いわゆる仲良しグループの状態に陥っています。グループ内の相互支援などグループ内SCは高い一方で、閉鎖的になっている可能性もあります。結果として、社会環境の変化を見落とす、新しい知識や情報を得られないといったことから、対象や地域のニーズに即した活動ができない、活動がマンネリ化する可能性もあります。



2. めざすべきグループの状態とは

図1 SCと活動状況で見るグループの状態

SCの高いグループ

- ❑ メンバー間のコミュニケーションが活発である。
- ❑ メンバー間の信頼関係が高く、「お互い様」の気持ちに基づく相互支援も活発である。
- ❑ 各メンバーが自分の意見やアイデアを言いやすい雰囲気である。
- ❑ メンバー間の活発な議論に基づいて、グループ運営に関わる決め事など、意思決定ができる

2. めざすべき活動とは

地域のSC向上に有効な活動

- 活動内容が地域や活動対象の集団のニーズに即している。
- グループが掲げるミッション・目的も地域SCの向上を目指している。
- 活動量・頻度・内容がグループメンバーの現状に即した無理のない形態である。

円熟グループ

これからの活動が
ますます期待されます！

人間関係やコミュニケーションが良好です。
活動の量・頻度・内容も適度です。

- グループの活動をさらに高めるにはどうすればいいか考えてみましょう。
- 高齢化しているメンバーをどのように支えるか話し合ってみましょう。
- 他の地域やグループにも還元出来るよう考えてみよう。

目指すべきは「円熟グループ」です。グループ内の相互支援やコミュニケーションが活発で、質の高い活動と適切な活動頻度・内容であり、更なる発展が期待される活動です。

関係を高めて

活動偏重グループ

活動は多くなり
地域への貢献が高いです！

活動の量・頻度・内容が現状に現状に適していない可能性もあります。

- メンバー同士のコミュニケーション力を高める必要があります。
- 継続的にメンバーが活動出来るよう支え合う意識を高めましょう。
- 活動量が多すぎないか、またメンバーの発言が十分尊重されているか見直しましょう。

「活動偏重グループ」とは、活動は頻繁に行い、活動先も増えており、とても忙しい一方、会議等でメンバー同士で議論やコミュニケーションをとる時間もなく、徐々にメンバー同士の交流の時間やゆっくりと活動について語り合う時間もなくなっている状態です。

多い

SCの視点

- グループ内のSCを高めるために、自由かつ活発なコミュニケーションの場を設けることが有効でしょう。
- コミュニケーションの機会は一定の頻度で定期的に行うことが望ましいでしょう。

5-2-2 活動内容の見直し

1. 活動内容と質の見直し

事業・活動が対象とするポピュレーション(サービスの受け手)にとって質の高いサービスを提供できているかを見直す必要があります。「質の高いサービス」とは、対象とするポピュレーションや地域のニーズを満たしている、事業・活動やグループが掲げる目的と一致している、倫理的に正しい⁴⁾ということです。

活動内容と質の見直しが必要と思われるグループの状態

- 活動依頼が少ない、グループの催しへの一般参加者の参加が少ない。
- 活動が地域に広がらない(活動場所が増えない)。
- グループメンバーの活動意欲が減退している(休会・退会者、欠席しがちな人が増えた)。
- 現在のメンバーのスキルや健康・生活状態では、受け手のニーズを満たせない。

グループの目的・ミッションは、活動を継続していく際に、その拠り所となる価値、規範、倫理、道徳を示すものです⁵⁾

メンバーと活動内容を見直す場をつくる

活動内容と質の改善するための5つのポイント

1. グループや事業・活動が掲げるミッションを振り返り、メンバーで共有する。
2. 活動内容がグループのミッションと地域のニーズに即しているかをメンバーと検討する。
3. メンバーの現在の健康や生活状況を鑑み、無理がない活動内容かを再確認する。
4. 目的に固執することで、活動に制限をもたらすという副作用があることを認識する⁵⁾。
5. その上で、地域のニーズとメンバーの状況に応じて、活動内容を修正する、新たな事業・活動を立ち上げることも必要(事業・活動の立ち上げは「3-1. 事業・活動の企画」を参照)。

※振り返りは、客観的なデータに基づいて実施することが効率的です。「3-3. 事業の評価」をもとに、活動内容を客観的にアセスメントしましょう。

SCの視点

- 活動の質を維持するためには活動上のマナーや活動方法等のルールも必要です。その一方で、メンバーの生活や健康状態、および地域のニーズに応じて活動内容を見直す、修正する、新しい活動を始めるといった柔軟性も必要です。例えば、高齢者主体の絵本読み聞かせグループの活動スタイルは、複数の子どもに絵本が見えるよう、立って絵本を子どもに提示しながら読むといった形態です。しかし、そのようなスタイルでの読み聞かせが身体的に難しくなってきたメンバーに対し、2~3人の子どもに座って読み聞かせる形式を取り入れる等、活動スタイルの修正をおこなっています。これにより、このような形式を望む施設のニーズを充足すると同時に、メンバーが身体的負担を克服して活躍し続ける仕組みと助け合いの風土を作り出しました。
- グループの目的の見直しの際に、「お互い様」といったメンバー間の相互支援も理念として盛り込み、再確認することで、SCの強固な安定したグループとなるでしょう。